

第1回新生匝瑳戦略会議 会議録

開催日時：平成22年11月24日（水）

午後7時00分～9時10分

開催場所：八日市場図書館集会室

出席委員：（学識経験者）鎌田元弘、木村乃、渡辺新

（団体推薦者）宇野充紘、萱森孝雄、越川竹晴、越川八代枝、
鈴木和彦、橋場永尚

（一般公募者）大塚榮一、岡田陽子、永野亮太、林暁男、八木幸市

（14人／名簿順）

欠席委員：（団体推薦者）安藤建子（1人）

市出席者：（特別職）太田市長、鈴木副市長、江波戸教育長（3人）

（事務局/企画課）木内課長、大木副主幹、椎名主任主事（3人）

1 開 会

2 委 嘱 書 交 付

3 あ い さ つ （太田市長）

新生匝瑳戦略会議の開会に当たりまして、一言ごあいさつを申し上げます。

皆様には、戦略会議委員へのご就任をお願いいたしましたところ、ご快諾を賜り、公私とも大変お忙しい中にもかかわらず、会議へのご出席を頂き、誠にありがとうございます。

また、日ごろから、本市の行政運営に格別のご理解とご協力を賜り、心から厚くお礼申し上げます。

さて、ご案内のように、本市は平成18年1月23日に、旧来から生活圏を共にし、歴史や文化、行政面でもつながりのある旧八日市場市と旧野栄町が合併して誕生いたしました。

誕生から4年が経過する中で新市の基礎づくりが成され、今後は更なる市政の充実と発展を目指し、次の世代に誇れる「新生匝瑳」づくりに向け、3つの基本方針と5つの重要施策を掲げ、本市の目指す将来都市像である「海・みどり・人がはぐくむ活力あるまち」の実現を図るため、各種のまちづくり施策を積極的に展開していくこととしております。

本日お願いいたしました新生匝瑳戦略会議は、市民と行政が共に目指す「新生匝瑳」への方向性についてご提言を頂くものであり、既成概念やこれまでの行政の枠にとらわれない斬新な発想、また、市民の感覚によるご意見をお伺いして、魅力と活力があり、市民が心から住みよいと実感できる匝瑳市を創造する施策に反映させるものでございます。

現在、匝瑳市では、少子高齢化への対応、にぎわいの創出、環境の保全、やさしく安心・安全な生活環境づくり、地域力の強化、行財政運営の健全化といった課題を抱えており、また、多くの個別具体的な課題に直面しております。

後ほどご説明することになりますが、中でも、JR八日市場駅前のいわゆるJT跡地や閉校となった小学校施設の利活用等が、緊急的な課題となっております。

「匝瑳市には元気がない。活気がない。」と言われてますが、私は、匝瑳市に元気や活気がないのではなく、ただ、うまく引き出せないでいる、秘めた潜在能力が活かされないでいるだけだと思っています。

私の使命は、匝瑳市の、そして市民の皆様の活力をいかに引き出し、活気に溢れ、にぎわいのあるまちづくりを推進していくかであると考えております。

市民の皆様からは「住んでよかった」、そして、全国からは、「匝瑳市に住みたい」と言われるような、魅力と活力のあるまちづくりに向けて全力で取り組み、愛するふるさと匝瑳市を、私たち自らの手で、自信と誇りを持って次の世代に引き継いでまいりたいと考えております。

委員の皆様には、匝瑳市のまちづくりに格別のご協力を賜りますようお願い申し上げます、新生匝瑳戦略会議開会に当たりましてのごあいさつといたします。

4 自己紹介

委員は名簿順に自己紹介、市は大木副主幹より紹介

5 議 事

(1) 委員長、副委員長の選出について

立候補者なし。委員から事務局案を求める意見あり。全委員の了承を得たため、事務局案により委員長に渡辺新委員、副委員長に橋場永尚委員を選出。また、新生匠瑳戦略会議規則第6条第1項の規定により、委員長が議長を務める。

(2) 会議の進め方について

- ア 市の懸案事項について
- イ 緊急的な個別課題について
- ウ 今後の予定について

[議長]

議事を進める前に事務局に確認したいのですが、新生匠瑳戦略会議は規則で設置していますよね。

[事務局]

はい。

[議長]

規則で設置しているということは市長部局で任意に設置できる機関だと思いますが、事前に戦略会議の位置づけをきちんとしておいたほうが良いと思います。戦略会議は審議会や諮問機関という位置づけでよろしいですか。

[事務局]

戦略会議の位置づけについてですが、審議会や諮問機関は条例による設置が必要となりますが、戦略会議は市長の私的諮問機関という位置づけでございます。市には「市における附属機関等の設置に関する指針」がございますが、この中の合議制機関にあたり、諮問・答申という形ではなく、市長の要請に基づいてご提言をいただくということになります。提言内容については市の内部機関である調整会議等の調整を経て、最終的には市長が主宰する庁議で政策決定をすることになります。

[議長]

それでは議事を進めていきますが、事務局より説明をお願いします。

[事務局]

それでは資料に基づきご説明をさせていただきます。今後ご提言していただく項目、会議の運営につきましてア～ウまで関連がございますので一括してご説明をさせていただきます。資料の1ページをご覧ください。

匝瑳市のまちづくりの基本方針についてですが、左側に示しているのが匝瑳市総合計画であり、その中で将来都市像については「海・みどり・ひとがはぐくむ活力あるまち 匝瑳市」と定めています。また、基本目標を5つ設定し、平成20年度から現在まで施策を展開しているところです。

右側に示しているのが「新生匝瑳」へ向けた市長のマニフェストであります。キーワードは、市政の充実・発展による次世代に誇れる新生匝瑳づくりということで、「新生匝瑳」3つの基本方針（①安心・安全のまちづくり②産業振興のまちづくり③市民参加のまちづくり）と、それを実現するための5つの重要施策（①医療・介護・福祉の充実②教育環境・子育て支援の整備③地域産業と地域経済の活性化④市民参加のまちづくり⑤広域行政の協力・強化）を掲げています。今後の戦略会議では、匝瑳市総合計画、市長マニフェストを十分踏まえていただいた上で主要課題に対するご提言をお願いしたいと思います。

2ページをご覧ください。市の懸案事項について主要なものを4つ掲げさせていただきます。

1つ目といたしましては、J T跡地、旧小学校施設等の利活用ということで、J T跡地については、市の活性化を図るために取得し、有効な活用について商工会と議論をしてきたところではございますが、有効な手立が見つからず、現在は更地となっております。また、旧飯高小学校、旧飯高保育所、旧米倉分校についても有効な利活用の方針を定められず、市民や議会からも有効な利活用について早急に検討を進めてほしいとの要望が出ているところでありますのでご提言をお願いしたいと思います。

2つ目といたしましては、人口減少への対応ということで、要因につきましては資料に記載のとおり多方面にわたる課題と認識しております。庁内においても若手職員を中心としたプロジェクトチームを立ち上げ、人口減少対策に向けたプランニングに取り組んでいるところですが、戦略会議においても大きな課題となると思いますのでご提言をお願いしたいと思います。

3つ目といたしましては、海岸地域の振興ということで、近年は堀川浜海水浴場の休止、のさか望洋荘の老朽化がございまして、海岸地域の活気が失われている状況であります。

一方、吉崎浜においては、サーファーにとって良い波が立つサーフポイントとして、1日に多い時で8百人近くのサーファーが市を訪れていますが、そのサーファーを地域の活性化に取り込むことができていません。海岸の資源を利用して海岸地域の振興、市の振興を図るご提言をお願いしたいと思っております。

4つ目といたしましては、市民病院の経営健全化ということで、市では匝瑳市民病院を経営しているところでありますが、医師不足による診療科の削減等があり、経営状況が悪化しています。市民からは安定した医療提供を求める声が多数あり、また、病院の経営については年間5億8千万円の財政支援を受けている状況ですので、市民病院の再生に向けたご提言をお願いしたいと思っております。

5ページをご覧ください。ご説明してきました市の懸案事項4つ、緊急的な個別課題3つについて、戦略会議の中で議論をしていただき、ご提言をいただきたいと思っておりますが、今後の会議の運営について、順番が逆になりますが、「2 提案書の作成について」をご覧ください。

懸案事項に対する提案書については、任期の満了を踏まえて平成24年10月までに作成をお願いしたいと思っております。

また、緊急的な個別課題に対する提案書の「J T跡地・旧小学校施設等の利活用について」は、平成23年4月までに作成をお願いしたいと思っております。これについては、ご提言をいただいた後、実施できるものについては平成23年度予算で対応していきたいと考えているためでありますのでよろしく申し上げます。

「平成24年度当初予算編成に向けて」は、市は毎年11月が次年度予算の編成時期であり、実施できる施策についてはできるかぎり実施したいと考えておりますので、平成23年9月までにご提言をお願いしたいと思っております。

そうした中で、「3 効率的な会議の運営に向けて」についてですが、時間的な制約もあり、会議内で一からの議論を積み上げていくのは困難ですので、事務局のお願いとしましては、会議と会議の間の時間を有効に活用していきたいと思っております。そのため、資料の事前配布、電子メール、FAX等を活用し、委員と事務局間で密接な連携をとり、委員の皆様には次回の会議までに課題等のご検討をし

ていただき、次回の会議で十分な議論をしていただきたいと思います。

また、「1 会議の開催予定について」ですが、平成22年度については2回ほどの開催をお願いしたいと思います。第2回会議を、平成23年1月20日、第3回会議を平成23年2月24日に開催したいと思います。平成23年度については年間6回程度、平成24年度については任期が11月までであることから、4回程度の開催を予定しています。

以上、本日の資料は皆様に初めてお示しするものでございます。今後の戦略会議のあり方、進め方について委員の皆様からご意見をいただきながら決定していきたいと思っております。

(意見交換)

[議長]

私も初めて資料を見ましたが、個別課題が出てきて驚いています。市の懸案事項4つ、例えば1のJT跡地、旧小学校施設等の利活用については、現場を見ないとどうしようもありません。小学校が廃校になったのは最近であり、2の人口減少への対応と関連があると思っておりますので、地域の社会構造がどのように変化しているかを正確につかみたいですね。

昨日、市のホームページ上で統計そうさを見ましたら、地域によっては人口がそんなに減少しているわけではないようなので、地域の構造変化を把握しないと何とも言いがたいですね。跡地利用については鎌田先生がご専門ですのでよくご存知だと思います。4の市民病院の経営健全化についても橋場先生がいらっしゃるので議論しやすいと思っております。

ただし、それぞれ専門的な知識が必要であり、この会議の場で専門的な議論をしていくのは不可能だと思います。それよりも、まず、このような課題をどのような方法で解決していくのかを議論したほうが良いと思っております。

市長マニフェストの中に市民参加のまちづくり、総合計画の基本目標5に住民協働とありますが、市民協働を含めた形で跡地利用や市民病院の経営健全化をどういう形でできるのか、市民参加とどのように関連できるのかがポイントとなると思っております。つまり、個別課題については専門家が議論すれば良いわけで、どう

いうやり方で課題を解決していくのか、市民参加をどのように図るのかを模索したほうが私は良いと思います。

とりあえず、市が現在どういう変化を遂げているのかを知りたいですね。人口減少や市民病院等の問題はどこにでもある問題であり、市民参加を図り、市の構造にあった形で解決をするためには市独特の問題を探り出さないといけないと思います。

事務局は市が現在、どういう変化を遂げているのか説明できますか。

[市長]

統計の推測によると、10年後に市の人口は約3万6千人になるのではないのでしょうか。

[事務局]

人口減少については、平成17年の国勢調査の人口に比べ、現在、2千3百人の減少となっています。

先ほど委員長からお話のありましたとおり、地域によって人口が減少しているところもあれば減少していないところもあり、国道126号線沿線については比較的人口の減少が少ない地域であります。しかし、中央地区については国道126号沿線の地域ですが例外的に人口減少率が高く、例えば八日市場小学校については数年前までは1学年5クラスだったのですが、近年では1学年2クラスとなっています。また、市の北部地域についても限界集落に近づいている状況です。

産業的な部分については、市の主たる産業は農業であります。高齡化が進んでおり、担い手の底上げがされておられません。

工業団地も須賀地区のみどり平に造成しましたが、企業数も28,9社となっております。空き地がある状況です。

交通アクセスについても大企業が進出してくる要素はなく、現在、全国どこにもある徐々に良くない状況に落ち込んでいる市となっております。

[議長]

わかりました。ちょっと気になったのですが、農業が主の産業ということで、私もそう思っていました。統計そうさを見てみたら第3次産業が多いことにびっくりしました。つまり、何らかの形で構造変化が起きているんだと思います。また、市域にも特徴があります。市の南側に海、真ん中に市街地、北側に山があ

ります。こうした環境の中で市民参加を図り、まちづくりを進めていくのは非常に難しいかもしれません。

[委員]

委員長がおっしゃったようにどこの市も抱える問題は多く、先立つものはなく、今後は人材も行政も細くなっていきます。そうした中で足りないものを補うのが市民協働です。

市民協働には農業を中心とした伝統的な市民協働もありますが、今後の市民協働は行政の担い手となる覚悟をもって一緒に汗をかくことが重要です。

短期間の中で具体的な問題があがっているとすると、そうした問題をきっかけとして市民協働を進めていくべきではないかと思いました。

[議長]

市民協働は現在の流行であり、一番最初に実施したのは我孫子市ではないかと思います。市民協働は、行政にとってはコストダウンを図って施策に取り組むことができるので良いのではないかと思います。

ただし、市民協働を進めるとすると、都市部に近い地域にはNPOがありますが、匝瑳市では、本日ここにお集まりいただいた委員を見ますと、各種団体からの代表者や一般の公募者がいらっしゃるわけですが、こうした形で市民協働に取り組むことは都市部のやり方とは変わってくると思いますがどうですか。

[委員]

前・千葉県知事の堂本さんはNPO立県と称し、県内にNPOをたくさん設立しようとして、千葉県はNPOの数は全国4位ですが、その設立は都市部に偏っています。旧郡部では、伝統的な協働があるからNPOは必要ないといった意見が多いために少なくなっているのですが、旧農村部のコミュニティを支える人たちが弱ってきています。そのため、もっと広い視点で協力をしていこうとすることが必要です。

私は南房総市でもまちづくりのお手伝いをしていますが、地域の衰退の状況、課題を指標で分析し、弱っている地域ではNPOに協力を求め、元気な地域はそのまま頑張ってもらおうといった戦略メニューを作り、暗中模索の中進めているところであります。

[議長]

やはり重要なのは市民の意識です。旧来の伝統的な農村だと閉鎖的、行政頼りであります。市民が積極的に参加し、行政とコラボする意識を持たないとまちづくりは無理だと思います。そのため、市民参加の仕組みを作りながら市の課題に対する解決策を作る方法を模索したらどうかと思いますか。

[委員]

匝瑳市の各地区にはそれぞれお祭りがあり、それが主体となって地域を活性化してきた部分があると思います。

地域の人たちが祭りに参加することは良いことであり、そういう面を活かせないのかなと思います。たかだか4万人の市にこれだけの祭りがある市は少ないのではないかと思います。また、祭りになると普段は匝瑳市に住んでいなくても地元に戻ってくる人が多いです。そういった人たちがなぜ匝瑳市に住まず他の場所で生活をしているのかを分析し、匝瑳市に戻って来られるようにする必要がありますのではないかと思います。

[議長]

外に出ていった人たちが帰ってくる仕組みは戦略会議で検討する必要があると思いますが、匝瑳市の祭りには古くから伝統があるものと同時に、新たに行政が地域市民のコミュニティの育成のために作ったよかっぺ祭り等があると思います。そうした行政の施策の背景には地域住民のコミュニティが壊れかけているということがあると思います。

[委員]

他の地域では祭りだからといって外に出ていった人が帰ってくることは少ないと思います。

[委員]

今までお話を伺ってきましたが、私はあまり難しく考えなくて良いのではないかと思います。市の懸案事項や個別課題はそれぞれ深刻な問題ではありますが、良いところを見ていくというか、もちろん問題の経緯やメカニズムを明らかにすることは必要ですが、委員長のおっしゃられたとおりそれはこの場でできる話ではないと思います。

それよりも、良いところを探していくことと、1～4の懸案事項について、1

は個別の事業の話なので何とも言えませんが、2～4については世の中に解決につながるいろいろな事例があり、どうすればどうなるかはわかっています。ただ、どうやったらできるのかがわからないということだと思います。そのため、何をすれば良いかを考えるのではなく、どうしたらできるのかを考えることが必要ではないかと思います。

こうした本日参加している方々で会議をする価値は、それぞれのバックグラウンド、ネットワークを活かしていけるかどうかにあると思います。例えばの話ですが、市民病院の問題については、皆で市民病院に行くようにすれば経営は改善します。

何をすれば良いかを考えるのではなく、どうすればできるのかを考えたほうが解決策が見えてくるのではないかと思います。

[議長]

匝瑳市をどう思っているのか、バックグラウンドを使いながらどのようなことができるのかについて皆さんからご意見を伺いたいと思いますがどうでしょうか。

[委員]

匝瑳市の里山を見てみると、今は何とか守られています、将来の里山を守る担い手がほとんどいない状況です。また、吉田地域は休耕田や放棄されてしまっている土地が多く、このままだと生物がいなくなってしまう。

高齢化と言われていますが、農業の担い手がいらない現状では里山も駄目になってしまうため、人口が減少していく中でどうやって里山を守っていくかを考えなければいけないと思います。現在、里山地域の農家で後継者がいるのは1、2軒です。

そうした現状を解決していかなければ、将来都市像に掲げている「海・みどり・ひとがはぐくむ活力あるまち 匝瑳市」の「みどり」が失われてしまい、里山が失われれば海も駄目になってしまうと思います。

[議長]

難しい問題ですね。少子高齢化が進むことによって農業後継者がいなくなると思いますが、街中の商店も同じ問題を抱えていると思います。また、外に出た人が帰って来ない話もありましたが、産業の場がなければ帰って来ませんよね。まさか、市内に大規模な工場地帯やアトラクションを作るというやり方はできませ

んし。

私は里山、海、農業、水田を抱えている意味というのは実は大きく、水田が無くなれば砂漠化が進んでしまうと思います。

[委員]

夢みたいな話ですが、大きな企業が農業を経営するというものがありますよね。そういうシステムがあれば、若者が農業を仕事として選んでくれるのではないのでしょうか。会社が市内の小さな田や畑をまとめてくれて一括管理し、美味しいお米、野菜を作っていければと思います。

[議長]

東京駅の構内では野菜を作っていますし、企業が農業を経営する事例はありますね。

[委員]

今のお話は実現できればいいかなとは思いますが、現実的に難しいと思います。ちょっといいですか。とりあえずこれからのまちづくりに関して意見を聞くのは良いと思いますが、緊急的な個別課題があがっているのでこれを議論する必要があるのではないですか。

[議長]

緊急的な個別課題は事業分野の問題なので、この場で検討していくのは難しいのではないのでしょうか。

[委員]

この会議の進め方も含め、とりあえず具体的な課題に取り組んでも、すぐに成果は上がらないと思います。それよりも、いろんな立場の委員がいますので、何でも良いから議論をして、そこで出たヒントを拾ってそこから広げていくというスタンスで進める形が良いと思います。

シンプルに考えると、お金を出すか、知恵を出すか、汗を出すかだと思います。お金が無いのであれば、あとは知恵を出すか、汗を出すかだと思いますが、皆が協働して考えていければ良いのではないかと思います。

[委員]

人口減少への対応について、人口減少が悪いことのような前提で書かれていますが、人それぞれの立場によってとらえ方は違うと思います。市民協働と言われ

ている背景には、市民のニーズが正規分布していた時代は誰かがリーダーとなれば良かったのですが、今は市民のニーズが多様化しているのでそれぞれの立場の人たちがそれぞれ対応していかなければならないということがあります。

そうしたことを考えると、少子高齢化がいけないようになってはいますが、決してそうではない可能性もありますし、人口減少がいけない理由も人によってさまざまだと思います。自分の子や孫が住んでくれなければいけないと考える人もいれば、集落を守りたいと考えている人もいます。

人口減少が仮に悪いことだとしても、それぞれがどういう意味で悪いと思っているのか、もしかしたら他の人は良い方向に考えれば良いのではないかと考えているかもしれません。このため、ブレインストーミングをするのであれば、提示されている問題に対するそれぞれの見方と所在の認識を出し合うだけでもだいぶ前進するのではないのでしょうか。

[議長]

今の話にあったように、市民の視点は多元的であり、それを前提に考え、それぞれを活かすことが重要です。

「公共」という言葉があり、これまで公共サービス＝行政サービスととらえてきましたが、今「公共」は問われています。公共サービス＝行政サービスではない部分もあると思いますので、そのことも考えていかななくてはいけないと思います。

[委員]

一連の流れを聞いていて、ユニークだなと思うのは緊急の個別課題です。私は他市でブレインストーミングやワークショップを多々経験していますが、残念ながら意見が出てから事業展開していくまでには参加者の多様化している考えをまとめるため、時間がかかります。しかし、個別課題を具体的に考えることを通して市民協働が育まれることは多々あります。最近では、抽象的なことでは成果が見られなくても、ちょっとでもいいから形が仕上がることにより市民協働が育つことが注目されています。

匝瑳市の場合には個別課題の中で市民協働に動き出してみるのがポイントだと思います。

[議長]

私も事業という形ではなく、ワークショップといった形でどうやってもっていかうかを考えていました。ただ、ワークショップについてわからない方もいらっしゃるかもしれませんのでご説明をお願いします。

[委員]

簡単に言うと、あるテーマについて少人数で自由に発言をし、話したことが消えないように模造紙等へ書き込んでおきます。そして書き込まれた全ての意見をつなげたり活かしていく会議形式です。

[議長]

千葉県だとどこの市町村がワークショップを活発に行っていますか。

[委員]

南房総市は年間80回ほどのワークショップを各地区に分かれて行っています。そこからNPOを作り、小学校の跡地を利用して指定管理者を置き、新たなコミュニティを起こしています。

[委員]

同じものを戦略会議で起こしてみてもどうですか。

[議長]

ここで作るのには難しいと思いますが、そうした市民活動はおそらく個別の案件を解決するためのワークショップを通じて生まれてくると思います。

[委員]

事務局にお尋ねしますが、JT跡地についてはワークショップを行ったことがあり、海岸線についても何度もワークショップを開いたことがあります。それらを参考資料にすることはできないのですか。

[事務局]

今お話があったのは匝瑳市商工会でJT跡地の利活用について検討したビジョン研究委員会のお話のことで、一定の方向性は出されましたが、最終決定には至らなかったと思います。その検討過程の資料はございます。

[委員]

委員会の中ではJT跡地は地形が悪い、駐車場ではまちの活性化にならないのではないかなどさまざまな意見が出されています。また、海岸線についても検討

がされてきましたのでそれらを参考資料として活かしていただけたらと思います。

[議長]

事務局にお聞きしますが、それは資料として提供できますか。

[事務局]

今お話のあった資料を提供することは可能です。しかし、そのような検討過程がありながら、具体的な施策展開に結びついていないことには何らかの問題があると思います。

[委員]

ワークショップは流行ですので、形式的にはどこでもやっています。しかし、ワークショップというのは、NPOを作って行動計画を立て、それに対し行政が予算化をするところまでやって初めてワークショップと言えます。

そのため、ワークショップ形式の会議を行うのではなく、今言ったような方法で問題解決まで行かなければワークショップとは言えません。そこまでやる覚悟が必要です。

[委員]

NPOを作るにはどうすればいいのですか。

[委員]

それはあまり難しくありません。それよりも、どのようなミッションを持ってやり続けるかが重要です。

[委員]

例えばJ T跡地の利活用について問題となっているところですが、匝瑳市は植木のまちなので、コンクリートを取り払い、四季折々の木を植えて人を呼ぶのはどうですか。新しいお店を建てても飽きられてしまいます。お花なら飽きないのではないのでしょうか。人を呼ぶには何か他とは違うものがなければなりません。匝瑳市の植木や野菜を栽培し、公園のような憩いの場を作ってみてはどうですか。

[委員]

懸案事項については、今までいろいろ話題になっていると思いますので、解決案というのはたくさん出ていると思います。しかし、それが他人事になっているから問題解決が進まないのではないのでしょうか。先ほどワークショップの話がございましたが、自分の立場の問題としてやっていけば問題解決が進むのではない

でしょうか。

しかし、市の懸案事項1～4は市の財政問題であり、市民生活の問題とは思えません。財政問題を検討してくださいと言われていたとするならば、財政問題として取り組まないといけませんよね。

財政問題については、当事者としての問題意識がないため、こういう風にするのがいいのではないですか、といった他人事としての意見しか出てこないのではないのでしょうか。そして、それを実現するための意思決定の仕組み、マネジメントがないから問題解決が進まないのであり、そうした原因部分に先にメスを入れるべきではないのでしょうか。

[議長]

おっしゃるとおりだと思います。他人事というのは先ほどから話している市民協働と関わりがあります。つまり、まちづくりは市民の意識の問題です。市民協働はあくまで参加であって動員では駄目です。NPOを作って行政と協働してもNPOが行政の単なる補完物では何にもなりません。

[委員]

飯高地区の住民は小学校が無くなっても地域の子どもたちは大事にしようじゃないかと考え、地域の住民の協力を得て子どもたちにいろいろな体験をさせてあげようと努力していますが、なかなかそれを理解してくれない方もいます。先ほど市民の意識の話がございましたが、子どもは皆のものという意識を持ってもらうことは重要だと思います。

また、飯高檀林は地域住民の協力のもと管理をしていますが、周辺の畑が荒れ始めています。現在、桜の里を作ろうと桜を植え始めていますが、協力者はなかなか現れません。自分のことと思ってチャレンジしているところですが、自分が実行するとなるとお金もかかり汗もかいて大変です。

[議長]

匝瑳市は地域と小学校の結びつきが強い地域だと思いますが、地域社会の中で公立小学校が無くなるのは地域にとってはとても大きなできごとだと思います。

[委員]

現在、飯高小学校を地域住民で清掃する計画を来年度に向けて考えています。どれだけ人が集まるかはわかりませんが。

[議長]

時間が無くなってきましたので。今後の戦略会議は、個別課題の事業計画を立てるのではなく、ワークショップやいろんな方法でどう活用していくのか、その中でどのように市民参加ができるのかを徐々に進めていったらいいのではと思います。

今回は具体的なJ T跡地についてのワークショップの資料や廃校になった飯高地区の状況を示して具体的に話をしていきましょう。

今日は冒頭から抽象的になってしまいましたので、次回からはもう少し具体的なものから議論していきましょう。

[委員]

最後にいいですか。市の懸案事項について、どうしても財政的な問題が気になります。例えばJ T跡地については、土地開発公社が借金をして購入しましたが、この借金の回収をどう考えているのか、また、問題解決に向けて市の財政と市民協働のどちらを重要視していくのか、市の考え方をお示ししてもらいたいと思います。

まちづくりを行うには財政が関係し、時間もかかると思います。また、この会議も息の長いものにしていかなくてはならないと思います。

[議長]

財政問題や市の考え方を考慮しながら、この会議では夢を見ましょう。財政問題を抱える中でどのように市民参加を図っていけるのかを考えていきましょう。

[市長]

先ほど物事を行うにはお金か知恵か汗かというお話もありましたが、提言していただくベースに財政問題は付き物だと思います。また、財政規模については、雲を掴むようなお金のかかる施設を計画するといったことはこの会議では提言されないと思っており、そうした提言に沿った形で事業展開していこうと思っています。そのため、提言については財政問題を考慮した上で検討していただければと思います。

[議長]

懸案事項4の市民病院の健全化については時間がなくなってしまいましたので、次回の会議で橋場委員にご説明をしていただければと思います。

また、次回からはより具体的なやり方でどういう市民参加ができるのかを考えていきたいと思います。そのためには、会議の前にたたき台となるような資料を事務局から出していただければと思います。

[委員]

議長、会議の時間が2時間では短いのではないのでしょうか。

[議長]

それについては事務局と検討させていただきます。

[委員]

今回の市民病院の健全化についてですが、先日行った市民病院の意識調査の結果を資料として提示をお願いします。

[議長]

今回の会議に向けた具体的な資料については、事務局と検討して探ってみます。その際、委員の皆さんに問い合わせをすることがあるかもしれませんのでよろしくをお願いします。

また、前もって資料の提供をして委員の皆さんに送付することにしたいのですが、事務局いかがですか。

[事務局]

本日ご要望のありました資料については、事前に委員の皆様へ送付したいと思います。また、本日の会議でお気づきの点等あれば事務局にご連絡をお願いします。

[議長]

今回の会議の開催については、平成23年1月20日ということよろしいでしょうか。

[事務局]

今回の会議については、差し支えがなければ平成23年1月20日にお願いしたいと思います。また、第3回以降については、その間に調整させていただきたいと思いますがいかがでしょうか。

[議長]

会議の終了時間については午後9時が限度ですか。

[事務局]

この場所だと午後9時が限度となりますが、市役所であれば時間の制限はありません。委員の皆様が参加しやすい時間について検討していきたいと思います。

[議長]

それでは次回の会議は予定通りとさせていただき、それまでに時間等については事務局と検討をしておきます。本日はこれで会議終了となります。

[事務局]

ありがとうございました。

6 開 会